

[た よ り]

兵庫県支部だより

宮本 孝

1 沿革と現況

兵庫県透析医会は、昭和 58 年 11 月、故原信二先生、坂井瑠実先生達が呼びかけ人となり結成され、昨年丁度満 20 歳を迎えました。当時、透析に関する学術・研究分野は、すでに藤田嘉一先生を中心とした兵庫県透析研究会として活発になされていましたが、そのほか、対基金、国保連合会、医師会、行政、腎友会との折衝、透析従事者の教育・育成など、透析に関しての多岐にわたる問題に対応できる県レベルでの組織が必要とされており、中央の医会と呼応してこの機に結成されたものです。

発足当時は会員数 20 名前後の小さな会でしたが、中央の医会から平澤由平先生、鈴木満先生にお越しいただき、不安の中にも夢と決意がみなぎった設立総会を行いました。その後数年間で会員数は飛躍的に増加し、5 年後には会員施設数 71 施設、会員数 90 名となり、また、県医師会の分科会としても認められ、名実ともに兵庫県の透析医の意見を代表する組織に成長しました。現在、会員施設数 145 施設、会員数 190 名であり、日本透析医学会入会登録施設数の 129 施設を上回っています。ただし、県医会の会員が必ずしも日本透析医会の会員になっていないという克服すべき現況があり、これについては後で述べます。

創立 10 周年を機に、平成 5 年には原信二会長が勇退され、第二代会長として後藤武男先生が引き継がれました。また、副会長として引き続き坂井瑠実先生、寺杣一徳先生がその任を果され、平成 14 年第 38 回総

表 1 平成 15 年度兵庫県透析医会幹事

浅野健一郎	新日鐵広畑病院
芦田乃介	芦田内科
井垣直哉	高砂市民病院
石田正矩	石田内科クリニック
江尻一成	城陽江尻病院
大前博志	原泌尿器科病院
金津和郎	兵庫県立尼崎病院
喜田智幸	坂井瑠実クリニック
齊藤雅文	齊藤内科クリニック
関田憲一	服部病院
永井博之	尼崎永仁会病院
中川清彦	川崎病院
中西 健	兵庫医科大学病院
西岡正登	住吉川病院
彦坂幸治	彦坂病院
深川雅史	神戸大学病院
宮崎哲夫	佐野クリニック
安本詔夫	公立日高病院
山梨利顕	明和病院
依藤良一	仁成クリニック

会にて、会長宮本孝、副会長寺杣一徳、申曾洙に交代しました。現在の組織形態は、名誉会長、会長、副会長 2 名、幹事 20 名（表 1）、および、10 の委員会と会計（表 2）で構成されています。幹事は任期 3 年で全会員の投票により選ばれ、会長は幹事の互選で推挙されています。ただし、任期、および会長、幹事の選出方法については、会則検討委員会で現在再検討中です。

2 活動状況

当会は、年 2 回の総会と、それに引き続く講演会、およびパネルディスカッションを定期に行っています（コメディカルを含めて 150～250 名参加）。最近 5 年

表2 平成15年度兵庫県透析医会委員会メンバー

		委員会	委員長	副委員長	委員
宮本会長 後藤名誉会長	寺杣副会長	保険	彦坂		永井(博), 関田, 後藤, 西岡, 大植, 岩崎(卓), 大前
		医療計画	芦田	彦坂	安本, 永井(徹), 江尻(一), 今井(敏), 岩崎(卓)
		移植推進	福西	大前	喜田, 彦坂, 山本(茂), 今井(信), 坂井(瑠)
		20周年記念企画	依藤	宮崎	中川, 九鬼, 岡, 日和佐(眞)
		会則検討	江尻(一)	西岡	井垣, 依藤
	申副会長	学術統計	中西(健)	吉矢	宮崎, 関田, 井垣, 深川, 中川, 金津, 山梨, 浅野, 喜田
		広報情報	永井(博)	小出	浅野, 竹岡, 江尻(一), 中尾, 中西(裕), 西庵, 松井, 原
		危機管理	西岡	斉藤	宮崎, 山梨, 深川, 吾妻, 吉矢, 馬殿
		医療経営	石田	森本	芦田, 荒川, 鄒, 阪本, 石川, 岩崎(徹)
		庶務	申	寺杣	石田, 江尻(一), 西岡, 依藤, 永井(博)
会計		依藤			

平成15年3月20日現在

表3 最近5年間の総会時講演, およびパネルディスカッション

平成11年6月5日	①講演「医療制度改革の行方と透析医療」 国際医療福祉大学 教授 松田鈴夫先生 ②特別報告「B型肝炎院内感染事故に対する対応」 学術統計委員会・庶務委員会
平成11年12月4日	①講演「透析患者の生命予後をおびやかす栄養障害とアミノ酸療法」 大阪府立病院腎臓内科 部長 椿原美治先生
平成12年5月27日	①講演「透析患者の結核感染症」 信楽園病院 青池郁夫先生 ②パネルディスカッション(6題) 「透析合併症とその対策—食品からのアプローチ—」
平成12年12月2日	①講演「透析医療を巡る倫理的問題」 日鋼記念病院 大平整爾先生
平成13年6月2日	①パネルディスカッション(4題) 「透析医療における肝炎ウイルス対策—院内感染を繰り返さないために—」
平成13年12月2日	①教育講演「透析とヘパリン起因性血小板減少症」 県立淡路病院 鈴木俊示先生 ②特別講演「医療保険制度の現状とその動向」 日本医療事務センター 医療経営研究室 麻生玲子先生
平成14年6月30日	①講演「病という体験」 静岡県立総合病院心療内科 岸本寛史先生 ②パネルディスカッション 「長期透析者である透析医療従事者が語るわが人生」
平成14年11月30日	①講演「透析医療のPITHALL」 日本透析医会会長 山崎親雄先生
平成15年6月7日	①講演「透析医療におけるリスクマネジメントについて」 日本大学医学部内科学講座内科二部門 講師 奈倉勇爾先生 ②パネルディスカッション(4題) 「透析医療の危機管理」
平成15年12月13日	①講演「腎不全と共に歩んで」 太田医学研究所所長 太田和夫先生

間の演題は、表3のごとくです。

幹事会は2カ月に1回開催し、各委員会から出された検討事項を審議決定し、医会の運営を行っています。

委員会活動は全般に活発で、通常年4回以上、多い委員会では月1回開催され、担当の責務を果たしています。

- 保険委員会は、社保、国保の審査員、およびその経験者を中心として構成され、会員の保険に関する質問に答えています。
 - 医療計画委員会は、新規開業される医師に面談し、透析医会のオリエンテーション、会員として守るべき基本ルール、透析従事経験の浅い方には、研究会、学会への入会、参加の推奨等を行っています。
 - 移植推進委員会は、永年、県内の移植推進の要となつてこられた福西先生に委員長になっていただき、今年より透析一移植医連絡会議を開催する運びとなりました。
 - 20周年企画委員会、会則検討委員会は今期限りの委員会ですが、決められた期限の中で精力的に活動を続けています。
 - 学術統計委員会は、毎回テーマを決め、全会員が参加できるアンケート調査と、それを補足する臨床検査（特殊検査を含む）によりデータをまとめ、概ね2年に1回、日本透析医学会、もしくは日本透析医学会誌に発表・投稿しています。今回は、「透析患者の栄養状態の把握」について行う予定です。
 - 広報情報委員会は、インターネットにおけるホームページの作成管理、および年1回の会誌の作成を担当しています。最近会員相互の連絡はメーリングリスト等を使用しています。
 - 危機管理委員会は、阪神淡路大震災の貴重な経験をもとにした災害対策、ウイルス性肝炎、結核、SARS等をテーマにした感染対策、および透析中の事故防止対策に対して、それぞれいち早く県内のコンセンサスをまとめてきました。
 - 医療経営委員会は、医療費削減の中で、主に開業医の経営上の悩みを忌憚なく話し合える場を設定するため、今期に創設しました。
 - 庶務委員会は毎月開催され、幹事会で検討する議題の整理、および幹事会での決定事項の履行における中心的役割を担当しています。
- なお、当会の年会費はA会員（私的医療機関の責

任者）3万円、B会員（公的医療機関の責任者）1万円、C会員（勤務医）3千円となっています。入会金は私的医療機関のみ必要で、10万円となっています。

3 日本透析医会加入について

当会々員190名（145施設）中、日本透析医会に入会している者は55名（49施設）にとどまっています。ただし、145施設中約40施設は公的病院ですので、民間施設でみると、組織率約50%強であるといえます。すでに過去において何回か入会呼びかけを行っていますが、なかなかかどっていません。

そこで今回、入会促進活動の第一歩として、昨年9月「日本透析医会に関するアンケート」をとってみました。回答者は52名、うち日本透析医会未入会者17名でした。その中で、日本透析医会に対する評価、期待、不満を自由に書いてもらいましたが、実に多様な意見が出されました。建設的な意見も多く寄せられていますので、参考資料として透析医会本部事務局に送らせていただきます。

入会金に関しては、1～3万円が妥当という意見が39名（75%）で大半を占めていました。現状の年会費が高いという意見は43名（82.7%）あり、うち未加入会員は15名（88.2%）でした。それでは、妥当な年会費額はという問いに対して、1万円：10名（うち未加入会員6名）、2～5万円：23名（うち未加入会員7名）、5万円超でも良いとする者7名（うち未加入会員1名）でした。以上より年会費は概ね2～5万円に設定すれば、入会を勧めやすいと思われました。今後は会費を浅く広く徴収するという方向もご検討いただきたいと思います。

そのほか、入会をおしとどめている理由として、少なくとも以下の理由が推測されます。①新しい透析施設は、県透析医会に入会しておれば、日本透析医会からの基本的な情報も手に入るの、わざわざ改めて入会する必要がないのではないかという考え、一方、②日本透析医会の詳細な活動は通常会誌によってしかわからないので、入会していない者にはその活動や意義がわからないという状況があるのではないかということです。いずれにしても支部としての当医会宣伝活動の不十分さの結果であり、今後は日本透析医会からの情報を会員に提供するとともに、不断にその存在価値の重要性を説いていく必要があると思っております。